

# 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位	2	単位
対象コース	全コース	コース	対象クラス	1 年	1~6 組	
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造					
使用副教材	家庭基礎 自立・共生・創造 学習ノート					

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

<b>学習目標</b> ：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 家庭生活に必要な知識や技術を身につけるだけでなく、社会の課題と暮らしを結び付けて考え、新たな価値観や行動を生み出すことを目標とします。また、地球環境や社会および経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合い、家庭科で学んだ知識や技術を生かして、持続可能な社会を作る担い手となることを目標とします。
<b>学習内容</b> ：この科目で学習する大まかな内容 (1) 自分らしい人生をつくる→今の自分を見つめ、青年期の自立について考え、家族や社会との関わりについて学びます。 (2) 高齢社会を生きる→高齢者になるとはどのようなことかを知り、これからの高齢社会を生きる者として充実した毎日を送ることができる社会を考えます。 (3) 食生活をつくる→より良い食習慣を身につけるための知識や技術を身につけます。 (4) 衣生活をつくる→健康で快適に装うためには、どのように衣生活を組み立てるのかを考えます。 (5) 消費生活を営む→持続可能な社会を形成していく一員として、意識的な経済生活を営むにはどうすればよいか考えます。 (6) 子どもと共に育つ→子どもの育つ力を理解し、親になった時、子供とどうかわかり、育んでいくかを考えます。 (7) 住生活をつくる→安全で快適な住居を整え、持続可能な住生活について考えます。
<b>学習方法</b> ：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 授業では、毎回プリントが配布されます。プリントを記入するだけでなく、口頭での説明も大切な  (2) 家庭 授業で得た知識を実生活で応用できるように、日頃から心掛けることが大切です。

# 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

<b>評価方法</b> ：何を使って評価するのか (1) 定期考査→年2回(第2回と第4回)行います。授業で学習した内容が出題されます。 (2) エプロン製作→エプロンを完成させ、ミシン縫いやボタンの付け方がよいかチェックします。 (3) 調理実習→実習に望む態度が意欲的か、エプロンを忘れてきていないかを見ます。 (4) ワークシート→グループ学習で意見などを記入したプリントを提出しているかチェックします。		
評価における定期考査の割合	80	%

# 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

<b>評価の観点</b> ：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか (1) 関心・意欲・態度 授業での発言が積極的であり、実習に取り組む姿勢が意欲的かを評価します。 (2) 思考・判断 授業での知識を活かし、物事を発展的に考えられるかを、授業の最後に提出する意見・感想のコメントから評価します。 (3) 技能・表現 被服製作での作品の仕上がりが良いかを評価します。 (4) 知識・理解 授業で学んだ知識が身に付いているかを定期考査や小テストで評価します。
---

## 5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第1章 自分らしい人生をつくる 1. 生涯発達の視点 2. 青年期の課題とは？    <b>道</b>	1. 各ライフステージの特徴と課題について理解します。 2. 自立した生活を送るには、これから何が必要か考えます。  3. 意思決定の仕方を考えます。 4. 自分の生き方について考えます。 5. 家族の役割を知り、家族のあり方について考えます。 6. 男女が共に仕事と生活を両立させるためには、どうしたらよいかを考えます。 (確認小テストを行います。)	●	●		●	
	5	3. 目標を持って生きる 4. 人生をつくる 5. 家族・家庭を見つめる  6. これからの家庭生活と社会    7 第2回考査  第3章 高齢社会を生きる 1. 高齢期を理解する  <b>道</b>	1. 高齢者・高齢社会の意味を知り、私達が高齢者との暮らしの中で出来ることは何か考えます。  2. 加齢に伴い、感覚機能や身体機能、精神機能が低下することを理解し、若い時からの健康管理が大切なことを理解します。また、高齢者疑似体験キットを使って動いたり字を読んだりすることで、不自由さを体験します。 3. 日本が高齢社会であることを理解し、保健医療や社会福祉サービスの充実が必要なことを知ります。	●	●		●	
2	8	半完成品エプロンの作成  9 第6章 衣生活をつくる 1. 衣服の役割を考える 2. 衣服を入手する 3. 衣服を管理する 4. これからの衣生活   	ミシンの基本的な使い方を理解し、半完成品のエプロンを使って、ポケット布の裁断・ポケット付け・裾縫い・仕上げを行います。  1. 被服の様々な機能を理解し、衣服の役割を理解します。 2. 衣服材料についての理解を深め、衣服の成り立ちを理解します。また、繊維製品の品質表示の見方を理解します。 3. 衣服の管理や保管の仕方について考えます。 4. 私たちの衣生活と、資源や環境問題との関わりについて理解します。			●		
	9	1. 衣服の役割を考える 2. 衣服を入手する 3. 衣服を管理する 4. これからの衣生活   	1. 被服の様々な機能を理解し、衣服の役割を理解します。 2. 衣服材料についての理解を深め、衣服の成り立ちを理解します。また、繊維製品の品質表示の見方を理解します。 3. 衣服の管理や保管の仕方について考えます。 4. 私たちの衣生活と、資源や環境問題との関わりについて理解します。	●			●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK					
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×				
2	10	第5章 食生活	1. 自分の食生活を振り返り、栄養をとるだけではなく、精神的、文化的な食を行うことの重要性を理解します。	●	●		●					
		1. 食生活の課題について考える 										
	11	2. 食事と栄養・食品 	2. エネルギーとなる栄養素・からだをつくる栄養素・からだの機能を調節する栄養素の種類やはたらきを理解します。また、各栄養素を多く含む食品を知り、自分の食生活を見直します。	●	●		●					
		3. 食生活の安全と衛生	3. 食品の選び方や保存について学び、食品の安全管理について理解を深めます。						●	●		
		4. 調理の基礎 第1回調理実習 第2回調理実習 第3回調理実習 第4回調理実習 第4回考査	4. 調理実習では、調理を通じて、基本的な調理技術を習得し、時間内に安全な調理が出来るようになるとともに、つくることの楽しさを知ります。						●			
12	5. これからの食生活  	5. 日本の食の営みについての課題を理解し、自分自身の食生活を見直します。	●	●		●						
3	1	第8章 経済生活を営む	1. 職業について調べ、どのような能力や資質が必要か考えます。	●	●		●					
		1. 職業生活を設計する										
		2. 計画的に使う							2. 家計の内訳を知り、収入と支出のバランスを保つことの重要性を考えます。	●	●	●
		3. 現代の消費社会							3. 支払方法の多様化を知り、中でも消費者信用の利点と欠点を考えます。また、消費者問題を取り上げ、トラブルにあわないためにはどうすれば良いか考えます。	●	●	●
	2	4. これからの消費生活と環境  	4. 持続可能な環境をつくるための取り組みを考えます。また、グリーンコンシューマーとしての行動について学びます。	●	●		●					
		3	第7章 住生活をつくる	1. 住まいの役割を知り、空間がどう構成されているのかを理解します。 2. 安全で快適な住生活に求められる条件を知り、そのために自分にできることは何かを考えます。	●	●		●				
1. 住生活について考える												
2	2. 住環境の計画と選択 		●	●		●						
	第2章 子どもと共に育つ	1. 子どもの身体の発達と心の発達について学びます。 2. 子どもの生活と保育について学びます。	●	●		●						
1. 子どもの育つ力を知る												
		2. 親として共に育つ										